



## 地域の風土を尊重しながら、自然環境や生物多様性保全に配慮した新工場の建設

# 凸版印刷株式会社 新群馬工場 が 都市開発版SEGESの認定を取得 ～都市開発版SEGESにおける工場緑化計画の認定は第一号～

公益財団法人 都市緑化機構（東京都千代田区外神田 2-15-2 会長 矢野 龍）が運営する「SEGES（シージェス）社会・環境貢献緑地評価システム」では、凸版印刷株式会社（東京都千代田区神田和泉町 1 番地 代表取締役社長 金子真吾）が、群馬県邑楽郡明和町に建設を予定している「新群馬工場」に対し、『緑の保全・創出により社会・環境に貢献する開発事業』として認定しました。

「社会・環境貢献緑地評価システム（SEGES：シージェス）」とは、緑をまもり育てる活動を通じて社会や環境に貢献している企業の緑地を対象に、特に優れた取組みを評価・認定する制度。政府の、第三次環境基本計画、生物多様性国家戦略2010、生物多様性民間参画ガイドライン等に位置づけられています。

SEGESの評価対象は、既存緑地版（そだてる緑）と 都市開発版（つくる緑） ※付属資料参照 の2種類があり、都市開発版の認定は、これまでホテル、マンション等の開発事業のみであったが、工場建設では本件が初の認定となります。

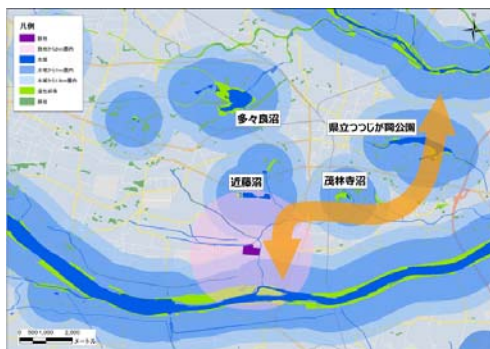
### 「地域の生態系ネットワークの一拠点」として地域環境への貢献を目指す

本事業地周辺は、冬季、北西からの季節風「からっ風」が有名であり、また過去において夏季には利根川の氾濫による水害など、厳しい環境の中で培われた風土があります。これまで地域の家々では、北西側にカシ等の常緑樹による防風林をつくり、米や味噌など生活必需品を、堤防と同じ高さの堤の上に築いた「水塚」（ミズヅカ/ミツカ）に収蔵して守っていました。また、周辺は、敷地南側に利根川、北側に多々良沼など湿地を伴う沼地が点在し、特に湿地にはオオヨシキリやセッカなど特徴的な鳥類が多く確認されています。

そこで、緑地計画では、これらの背景を踏まえ防風林と水塚による景観をデザインに取り込む「風の森ゾーン」、生態系ネットワークを意識した地域植生による郷土の森づくりをコンセプトとした「雑木の森ゾーン」、このエリアでは、河畔林としての湿性環境を再現し、ミドリシジミの誘引も目指しています。また、竣工後には、雑木の森を中心に、緑地内での発生材有効活用や生物多様性促進の設備を活用した所内及び近隣住民も含めた、環境教育イベント等の企画運営についても検討しています。

その他、桜並木を中心に、「県立つつじが岡公園」のつつじや特産物であるシクラメンを導入し地域景観に貢献する「花の森ゾーン」など、花や緑の多様な特性を活かせるよう工夫がはかられています。

SEGESでは、こうした企業の社会貢献を具現化した計画を高く評価し、社会環境貢献緑地として認定しました。



計画地周辺の水域ネットワーク図



雑木の森の湿性園（湿性環境の再現）



環境教育活動の実施も計画

※イラストは構想段階のものをイラストとして描いています。実際のデザイン・仕様などは、今後、変更となる場合があります。